

19 年国公立大入試情報

急増する国公立大の“地方会場”。19 年度は 国立 12 大学、公立 19 大学で設置！

- 山形大・宮崎大など、国立 4 大学で新規開設 -

旺文社 教育情報センター 18 年 11 月 10 日

自校キャンパスの所在地以外の都市に試験場を設ける「地方試験会場」は、私立大の 7 割近くで開設している。一方、国公立大で設置するのはごく少数だったが、ここ数年で状況は一変。特に平成 18・19 年度の 2 年間で設置校が急増し、今や国立 12 大学・公立 19 大学が「地方試験会場」を設けるに至った。少子化や国立大学法人化などの影響もあり、遅ればせながら私立大なみの学生募集強化が始まったといえる。

■過去 5 年間で設置校がほぼ倍増

「地方試験会場」といえば私立大ならではの、というイメージがある。実際、一般入試に限っても、19 年度では私立大全体の約 69% が設置している。地方試験会場を設置していない私立大は、女子大や医・歯・薬・医療系、芸術・体育系などの単科大に多く、総合大学では青山学院大・慶大・駒澤大・上智大・立教大・早大など、首都圏を中心に少数が残っているに過ぎない。

◆19 年入試 地方試験会場未設置のおもな私立大

獨協医大、女子栄養大、千葉商大、青山学院大、桜美林大、大妻女大、学習院大、共立女大、共立薬大、慶大、国際基督教大、駒澤大、上智大、昭和薬大、成蹊大、成城大、聖心女大、清泉女大、東京経大、東京慈恵会医大、東京女大、東京薬大、東邦大、日本医大、日本女大、星薬大、武蔵大、明治学院大、立教大、早大、京都薬大、大阪歯大、関西医大、関西外語大、甲南女大、など

一方、地方試験会場を設ける国公立大は、つい 5 年前（14 年度）までは全体の約 11%（167 校<当時>中 18 校）とごく少数派であった。特に国立大では、明治 43（1910）年から東京会場を設けていた秋田大 - 工学資源（旧鉱山学部。前身の旧制秋田鉱専の開校時から）の他、群馬大 - 工、信州大 - 経済、鹿児島大 - 水産など、ごく一部だった。

それが 15 年度以降の 5 年間で急増し、19 年度は国公立大全体の約 20%（157 校中 31 校）を占めるに至った。特に 18 年度には、弘前大 - 人文・理工・農学自然科学 / 岩手大 - 人文社会科学・工 / 東京海洋大 - 海洋科学・海洋工 / 福井大 - 工の国立 4 大学 8 学部、札幌市大 - デザイン / 名寄市大 - 保健福祉 / 前橋工科大 - 工の公立 3 大学 3 学部が、一挙に地方試験会場を新設した

(ただし、札幌市大は19年度に廃止)

会場の新増設が、各大学の入試結果(表1を参照)にどれほどの影響があったかは、会場別の受験者数を発表する大学が少なく、必ずしも志願者が増えていないので一概にいけない。ただし、名古屋会場を設けた福井大・工では、志願者が17年度比で16%増加したが、東海4県(愛知・岐阜・静岡・三重)からの志願者も確かに増えたという。また、前橋工科大では前期の志願者のうち、東京・名古屋の両会場ですべて4割を占めた。さらに、17年度以前からの実施校でも、群馬大・工では東京会場ですべて毎年ほぼ200人程度と、安定して受験者を集めているという。

18年度に地方試験会場を新・増設した国公立大の一般入試結果

<表1>

大学	学部	日程	募集人員	志願者数	合格者数	志願指数	18年倍率	17年倍率	備考
弘前大	人文	前期	220	551	241	82	2.2	2.5	
	理工	前期	204	425	224	96	1.9	1.9	
	農学自然科学	前期	129	293	139	99	2.0	2.2	
岩手大	人文社会科学	前期	120	214	137	96	1.5	1.4	
	工	前期	264	333	263	62	1.2	1.7	
東京海洋大	海洋科学	前期	163	745	195	111	3.7	3.2	
		後期	70	650	94	133	4.1	3.1	
	海洋工	前期	94	241	126	69	1.8	2.7	
		後期	40	262	50	61	2.2	3.4	
福井大	工	前期	260	760	310	116	2.3	2.0	
札幌市大	デザイン	*	54	414	87	新設	4.6	新設	*別日程(前期)
名寄市大	保健福祉	*	72	622	108	新設	5.1	新設	*別日程(後期)
国際教養大	国際教養	*	95	992	213	99	4.1	5.4	*別日程(A~C合計)
秋田県大	システム科学技術	前期	124	484	167	218	2.6	1.2	
		後期	48	553	94	119	1.8	1.4	
	生物資源科学	前期	71	258	75	171	3.0	2.6	
		後期	28	371	62	117	2.2	3.1	
前橋工科大	工<昼>	前期	75	273	112	82	2.3	2.9	

(注1)大学名のは、新規に地方試験会場を設置した大学を示す。また、無印は会場を増設した大学を示す。

(注2)志願者指数は、17年の志願者数を100とした指数。倍率は実質倍率(受験者数÷合格者数)。

(注3)地方試験会場を新設または増設した学部・日程のみ掲載。

■信州大・兵庫県大でも会場を増設

19年度から新たに地方試験会場を設けるのは、室蘭工大・北見工大・山形大・宮崎大の国立4大学4学部である。室蘭工大は前期で札幌・仙台に、北見工大は後期で大阪に、山形大は工学部(A・B両コース;前期)が名古屋に、そして宮崎大は教育文化学部(前期)が横浜に、それぞれ試験会場を設置する。

宮崎大・教育文化の入試担当者は、横浜会場の設置について「首都圏では小学校の教員が不足していますが、初等教育の教員養成課程を持つ大学は限られています。そうした地域の教員志望者に本学が教育の場を提供し、出身地の教員として戻ってほしいと考えています」と、潜在的なニーズに期待する。

また、すでに地方試験会場を設置している大学のうち、信州大と兵庫県大が大阪会場を増設。弘前大では人文学部が札幌、教育学部と医学部保健学科が八戸で、新たに前期日程の試験を実施。高崎経大でも地域科学部(後期)の会場を金沢・岡山に増設する。

ただし、札幌市大では18年度にデザイン学部が設置した東京会場を、19年度から廃止。また、高崎経大では那覇会場を廃止する。

■東京に最多の16大学が設置

試験会場の設置状況を都市別にみると（p.5の図1を参照）東京が16大学と最も多く、次いで大阪10大学、名古屋9大学、札幌8大学……と続く。

19年度は3大学が大阪に新設する。その背景として、地理的に関西地区の中央に位置し、京都からも神戸からも行きやすく、複数の鉄道ルートがあるという、交通の利便性が考えられる。全体に、各大学の都道府県別の受験・入学状況と、交通アクセスを勘案して会場を決めることが多いようだ。

会場として使用される施設は、大学や予備校、専門学校、高校などさまざま。大学を使用する例としては、北見工大の大阪会場＝関西大千里山キャンパス / 岩手大の東京会場＝慶大三田キャンパス / 群馬大の東京会場＝中央大理工学部キャンパス / 信州大の大阪会場＝大阪医大高槻キャンパス / 兵庫県大の大阪会場＝関西大天六キャンパス、などが挙げられる。

また、予備校は室蘭工大・福井大・宮崎大など、専門学校は東京海洋大・福井県大など、高校は弘前大（八戸会場＝八戸高・八戸西高）などで使用する。

■“少子化”と“法人化”が後押し

ここ数年で国公立大の「地方試験会場」が急増したのは、①少子化による「大学全入」時代への突入を直前に控え、志願者減・競争率低下による入学者のレベル低下が懸念され、②さらに国立大の場合は、法人化によって自己収入の増加に迫られ、私立大なみに学生募集を強化する必要があるためであろう。加えて、③法人化によって大学経営の自由度が高まり、入試制度の柔軟な運用と相俟って、「地方試験会場」設置を後押しする要因となっている。

20年度以降も、大都市圏以外の国公立大において、広く全国から志願者を掘り起こすため、「地方試験会場」設置はますます盛んになるう。

■都留文科大の“全国展開”

ほぼ半世紀前から、積極的に地方試験会場を設けてきた公立大として、都留文科大がある。富士山麓の人口3万人余りの山梨県都留市が運営してきた、教員養成系（初等教育学科）を中心とした大学だ。19年度は公募推薦で14会場（新潟に増設）、一般選抜中期日程で11会場を設置。こうした“全国展開”を、昭和35（1960）年の開学当時から行っていたといい、同校の昭和40年の募集要項によると既に8会場を設けている。

同大学の入試委員長である寺川宏之教授は、「本学の場合、やはり地理的条件から大学周辺の受験生人口に限られるため、開学当初から全国に受験者を求める必要があったのです。山梨県以外の全都道府県から9割以上の入学者が集まることで、お互い良い刺激を受けますし、ほとんどの学生が市内に下宿するので、都留市自体の活性化にもつながっています。また、全国に本学出身の教員が存在することが、教員採用面で好影響を及ぼしていると考えています」と語る。

確かに、18年一般入試の各会場の実施状況を見ると(表2)、仙台・東京・名古屋の3会場では自校キャンパスを上回る人数が受験したのをはじめ、全国から満遍なく学生が集まっているのを見て取れる。教員養成系では希少な中期日程という人気要因もあって、“全国展開”は本来の目的どおり機能しているようだ。

会場の設置基準については「受験生のニーズを把握するため、毎年、全国で400校近くの高校を本学の教職員が訪問し、進路指導や学年主任の先生方の意見を集約して検討を行っています。大切なのは受験生の利便、特に交通の便です。18年

度には公募推薦の会場を盛岡に設けましたが、新幹線を利用して会場に来場する青森県・秋田県の高校から、従来の仙台会場より近い都市の要望が強かったためです」とのこと。不断のデータ収集と細かい配慮が“全国展開”を支えているのだ。

■活用次第で意外なチャンスが

国公立大受験生にとって、地方試験会場の拡大は、大学まで出向かなくても地元で受験できるチャンスが増えるため、心理面でも経済面でも朗報といえる。宿泊代や交通費がかからず、精神的にもリラックスできるメリットがあるからだ。さらに、他の日程(前期の場合は後期と公立大中期)で、個別試験(2次)を課さずセンター試験のみで判定する学部・学科を組み合わせれば、いわゆる“受験旅行”の必要はなくなる。

ただし、受験校のキャンパスを直接見ておかないと、入学後に自分の希望に沿わない場合、意欲の低下につながりかねない危険がある。やはり、地方試験会場で受験するのであっても、受験前のなるべく早い時期にキャンパス訪問をしておくべきであろう。

各大学の会場設置状況をp.5の表3にまとめたので、志望校選びの参考にしてほしい。意外なチャンスとの出会いが、新たな進路の可能性を開いてくれるかもしれない。なお、本文中に示した以外の会場に関する詳細は、各大学の募集要項で確認のこと。

都留文科大学 18年度一般入試
(中期日程)会場別実施状況<表2>

会場	志願者	受験者	合格者
都留	566	353	61
札幌	108	69	18
仙台	595	396	54
東京	879	520	100
富山	440	286	50
名古屋	609	407	86
大阪	491	304	69
広島	381	266	56
高松	345	221	40
福岡	298	218	39
鹿児島	111	79	10
那覇	28	22	2
合計	4,851	3,141	585

*同大学案内による

19年度国公立大入試(一般選抜) 地方試験会場一覧

<表3>

設置	大学	学部	日程	地方試験会場(自校キャンパス以外)													備考		
				札幌	八戸	弘前	仙台	東京	横浜	富山	金沢	名古屋	大阪	神戸	岡山	広島		高松	福岡
国立	室蘭工大	工	前期																所在地=北海道室蘭市
	北見工大	工	後期																所在地=北海道北見市
	弘前大	人文	前期																
		理工・農学生命科学	前期																
	岩手大	教育(生涯教育課程以外)	前期																
		医(保健)	前期																
	秋田大	工学資源	前期																
	山形大	工A・B	前期																
	群馬大	工	前期																
	東京海洋大	海洋科学、海洋工	前期																
	福井大	工	前期																
	信州大	経済、人文	前期																
宮崎大	教育文化	前期																= 中学芸術、保健体育系、 障害児教育、芸術文化、生活 健康の各選修コースを除く	
公立	鹿児島大	工、農、水産	前期																
	札幌市大	デザイン	前期																
	名寄市大	保健福祉	前期															所在地=北海道名寄市	
	釧路公立大	経済	中期																
	公立ほこだて未来大	システム情報科学	前期																
	青森県保健大	健康科学	前期															所在地=青森市	
	青森公立大	経営経済	前期															所在地=青森市	
	国際教養大	国際教養	前期															* 別日程(A・B・C日程)	
	秋田県大	システム科学技術、生物	前期																
	会津大	資源科学	後期																
	前橋工科大	コンピュータ理工	前期																
	高崎経大	経済、地域政策	前期																
		経済	中期															x	
	富山県大	地域政策	後期																
		工	前期																
	福井県大	経済、生物資源、看護福祉	前期																
	都留文科大	文	前期																
	兵庫県大	理	中期															所在地=兵庫県上郡町、本 試験場=兵庫県姫路市	
	島根県大	工	前期															所在地=兵庫県姫路市	
	県立広島大	総合政策	前期																
県立広島大	生命環境	前期															所在地=広島県庄原市		
下関市大	経済	前期																	
福岡県大	人間社会、看護	前期																	
福岡県大	人間社会	前期															所在地=福岡県田川市		
宮崎公立大	人文	前期																	

(注) = 19年度の新設会場、x = 廃止会場

19年度 国公立大一般入試の地方試験会場の分布

<図1>

* (前) = 前期、(後) = 後期、(中) = 中期、(別) = 別日程、の略

